

幌尻岳を登山する皆さんへ

日本百名山の一つでもある幌尻岳は、標高 2,052m。日高山脈襟裳国定公園の中で最も高い山であることから、アイヌ語で「大きい・山」を意味する「ポロ・シリ」として地元でも親しまれてきた山です。毎年夏には一面高山植物のお花畑となる山頂付近のカール状大地や豊富な動植物群、山頂からは幾重にもなる日高山脈の山並みが一望できるなど、魅力あふれる山として全国から多くの登山者が訪れています。

幌尻岳額平（ぬかびら）川コースは百名山のなかでも難易度の高いルートとなっています。安全な登山を楽しむため、また、豊かで貴重な自然を守るためのポイントをご紹介します。

額平川の渡渉

額平川コースは取水ダムから、幌尻山荘まで十数回の渡渉（沢渡り）を繰り返すこととなります。雪解け時期は股下、渇水時期でも膝程度の水深があり、場所によっては水流の強い箇所もありますので、沢用の足回りは必携となります。（ヘルメットの装着も望ましい。）さらに増水に対する注意も必要です。額平川は水源地在カールで水を集めやすい地形で、溪谷が深く刻まれているので、雨になると急激に水位が上がります。溪谷にいる登山者は逃げ場がなくなる危険性があります。増水した川を強行下山しようとして流され死亡したり、途中まで行ったものの戻ることもできなくなり、沢の途中でビバークするなどの事故が毎年、発生しています。

「増水時の渡渉はザイルを使えばいい」と言われますが、熟達していない登山者が、みようみまねで使うとかえって危険です。安易にザイルに頼らず、沢が減水するのを待つのが鉄則です。

入山数日前から下山日までの気象情報を必ずチェックし、増水の恐れが無いかどうかを判断してください。それでも入山後に川が増水したら、無理せずに幌尻山荘で待機してください。安易な巻き道や強行下山は死亡事故につながります。重大な事故を防止するためにも、ご自身の体力や経験、体調にあわせ、無理をせず、引き返す勇気を持つことも重要となります。

植物への影響と動物とのかかわり

厳しい環境に生きる高山植物は回復力が極めて弱く、強い繁殖力を持つ平地植物はこれらを駆逐してしまう危険性を持っています。平地植物の種などを運び込まないように、入山前に靴などの泥をよく落としましょう。また、山域の高山植物は自然公園法で保護されており、無断採取は6か月以下の懲役または50万円以下の罰金になります。

野性動物にとって、人間の食べ物はたいへん魅力的です。彼らの優れた嗅覚からすれば、ほんの小さなゴミでも強い誘引物となります。こうして、ゴミを介して人間の味を覚えてしまった動物は、更なるエサをもとめて人と関わろうとします。ヒグマがゴミ目当てに人や山荘に近づいて、人身事故につながることも考えられます。動物との良好な共存を継続するために、野性生物の生活圏に侵入する人間の側が配慮する必要があります。ゴミはすべて持ち帰るようにしましょう。

●気象条件

北海道の2,000メートル級の山は本州方面の山に比べ気象条件が厳しく、本州中部地方の3000メートル以上の山に匹敵します。

●登山道

本州の山とは異なり、幌尻岳登山に関しては、明瞭な標識や登山道が登山者を案内してくれる訳ではありません。幌尻岳登山特有の渡渉に関しては十数回を数えます。登山者の性別・体格にもよりますが、通常は深い所で大人の膝くらいまでですが、増水時は腰くらいまであり流れも速く大変危険です。

(注) ここ数年の事故は渡渉中の転倒、増水によるものであり最も注意が必要です。渡渉には沢歩き用の用具を使用して安全に努めてください。また、川の上流は切立った谷になっているため大量の雨が降った場合鉄砲水となり人が流される場合もあります。山は逃げません。増水した場合は渡渉を中止し、引返す勇氣も必要です。

渡渉の際は荒天になればなるほど経験の差が出ます。自分の力量を冷静に判断して幌尻岳登山に臨まれるようお願いします。北海道内の百名山を目指す人は特に注意してください。

また、集団で登山する際には迷惑をかけまいと無理をしたり、体調が悪くなくてもなかなか言い出せなかったりする場合があります。団体行動においても各自がリスクを認識し、決して無理せず、撤退も念頭に余裕を持って行動して下さいをお願いします。

●幌尻山荘

本州からの登山者の中には、本州の営業小屋のように食事・寝具等が提供されると思い込み、軽装で入山する方がいるようですが、幌尻山荘は、食事・寝具等は、全て自分で用意し担いで登らなければなりません。(水場は近くにあります。7~9月管理人常駐。4月1日より予約受付)また、緊急の場合を除き指定野営地もありません。

●携帯電話の利用

山頂の一部を除き携帯電話は圏外となっております。非常時の通信手段は幌尻山荘にしかありません。

●登山する際に注意する事

- ・出発前は天気予報を調べ持物、服装を確かめ飲食物に注意し、身体の調子を整え十分睡眠をとりましょう。
- ・山の天候は変わりやすいので、暖かくてもセーターや下着などの着替えは必ず持ち、晴れていても雨具の用意をしましょう。(一般に山の温度は高度100m毎に0.6℃低下します。)
- ・天気の悪いときは行動をひかえましょう。
また、一般に午後は天気が崩れやすいので行動は午前中に終わるよう心がけてください。
- ・川の増水によって下山できない場合がありますので、予備食は必ず持参してください。
- ・登山計画は、ゆとりをもって避難コースや予備日を検討して作りましょう。
また、必ず登山計画書を警察へ提出してください。道内どこの署でも可。
- ・近年、ヒグマの出没が増えていますので、ゴミは必ず持ち帰るようお願いします。

新型コロナウイルスに感染拡大防止に協力を

現在「新しい生活様式」のもと、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んでいただいているところですが、登山者の皆さんにも引き続き感染防止に向けた取組が求められています。

登山に親しまれている皆さんには、必ず登山計画書を提出し山岳遭難防止に努めるとともに、以下の点にご留意・ご協力をお願いします。

1. 体調に不安がある場合は絶対に入山しないこと

・日頃の体調管理に加え、登山当日には体温測定を行うなど体調を確認し、発熱やせき等の症状がある場合には登山を控えてください。

2. 山小屋の事前予約を徹底すること

・山小屋を利用する場合には、必ず、事前に予約をしてください。

3. 登山者自身の力量にあった登山をすること

・新型コロナウイルスは潜伏期間が比較的長く、入山時は元気でも登山中に発病する可能性があります。登山中に発病した場合、高所では血液中に酸素を取り込みにくく、また、低い気温や悪天候なども影響し、感染症を悪化させる危険性があります。

・体力不足による疲労も山岳遭難の原因の一つです。ガイドブック等を参考に、「登りたい山」ではなく「自分が登れる山」を選んでください。

・感染の疑いがある人が救助対象となった場合、救助にあたる救助隊員は十分な防疫対策を整える必要があり、通常の救助活動より時間がかかる場合があります。また、その後の救助・医療体制にも多大な影響を与える可能性があります。

4. 混雑を回避する登山計画により行動すること

・密集・密接を避けるため、登山は少人数で行い、会話は控えめにしてください。

・行動中はフィジカルディスタンスを確保してください。一般的には2メートルですが、運動強度が高い場合は吐く息が激しくなるため、さらに距離を空ける必要があります。

・山小屋や休憩場所ではマスクを着用の上、手指消毒を励行してください。なお、登山中にマスクを着用する場合は、熱中症や脱水症状に注意し、状況に応じて外してください。

5. 感染予防グッズを携行し、ゴミは持ち帰ること

・感染予防グッズとして、マスク、消毒液、クロス、体温計、使い捨て手袋、密閉ビニール袋、携帯トイレを携行してください。

・山小屋が感染拡大防止のルールを定めている場合は従いましょう。